

昭和十一年

独立混成隊五旅団砲兵隊略歴

<p>年月日</p>	<p>概要</p>
<p>五 一</p>	<p>独立混成隊五旅団砲兵隊編成完結 砲兵隊は本部及三中队 砲兵隊本部は各中队より要員を差出し編成す 各中队は旧独立混成隊五旅団臨時自動車中隊を砲兵隊編成完結と同時に砲兵隊長の指揮下に納入せらるる 人員 兵器の概要 人員 本部 中隊長以下三四名 一中隊 中隊長以下一三八名 馬匹 一〇一頭 兵器 白旗砲 三ヶ門 砲兵隊本部は 青森特別市本村に位置し、本村区附近の警備を擔せしめらるる</p>

年月日	概要
昭和五年五月五日	<p>才一中隊は、視駐地（大塚島）に任置し、大塚島附近の警備を擔任す。</p> <p>警備擔任区域変更に伴ひ、警備擔任部隊（独立歩兵才二十大隊）に既屬を命ぜり、以現任務を続行す。</p> <p>才二中隊は現駐地（季村）に於て砲兵隊長の直轄とし、地区内警備を擔任す。</p> <p>才三中队は現駐地（青島特別市台東鎮）に於て砲兵隊長の直轄とし、地区内の警備を擔任す。</p> <p>才一中隊は独立歩兵才二十大隊長の指揮下に入りあり、豫備隊兼準備の爲り築城工事に命ぜり、中隊長以下全員工事に従事す。</p> <p>才二中隊は、独立歩兵才十八大隊長の区署を受け、季村附近の築城工事を實施せしめり。依つて中隊長以下全員工事に任ず。</p> <p>砲兵隊は、青島市千山附近の築城を命ぜり、才三中队（</p>

昭和五年五月五日
七
五十三

0107

年 月 日	昭 三 七 五
概 要	<p> 台東鎮駐留)を季村に移駐を命ぜり、 才三中队は、季村に移駐と同時に午山村附近の築城を実施せし める目的を以て中队の一部を小早庄附近に分駐せしむ。中隊長 以下全員築城を実施せり 砲兵隊本部は築城を実施しつゝ、本部の編成を強化し、文月米 庄には概相嶺村に参与せしむる如く訓練せり 砲兵隊は本部、二中队を以て季村地区警備並に築城を実施せり 砲兵隊長は、部下中队並に工兵隊中隊長の指揮より一中隊を合せ指 揮し、至兼部隊築城援助の目的を以て小東省河河に到り、兵器、弾 薬、糧味、築城材料舗路及校橋を構築し、七月中旬頃現駐地に帰 還せり 各中队は依然として現任務を履行しつゝあり 停戦の報告を發布せしむるに、部隊は現任務を履行す </p>

年月日	概
一 二 三	<p>約一ノ隊を約子口に差出し、同地に着陸し、ある重油の保管所附近の警備に任す。</p>
一 二 三	<p>大長島駐留ノオ一中隊を砲兵隊本部ノ位置に移駐せしむ。</p>
一 二 三	<p>津村駐留ノオニ中隊は若口嶺炭工場警備に任す以て同地に移駐す。</p>
一 二 三	<p>復員帰還ノ下ノ若口嶺中營に某給す。</p>
一 二 三	<p>内地帰還ノ為青島港出発。</p>
一 二 三	<p>佐世保上陸。</p>
一 二 三	<p>同日四ニ三名隊隊召某解除さる。</p>

0109

昭和三十一年四月

独立混成第五旅団工兵隊略歴

部隊長 陸軍大尉 市毛 藤次郎

年月日	略歴
昭和三十一年三月	<p>編成完了後の状況 軍令陸甲オ十八号及び陸亞密オ十五号により、独立混成第五旅団編成改正下令せり。 右下令に依り、独立混成第五旅団工兵隊は、中華民國・青島特別市沙嶺五福安兵舎に於て、昭和三十一年四月十五日編成着手。 昭和三十一年四月三十日編成完了。 編成擔任部隊 独立混成第五旅団司令部 編成完了時兵力 山口中尉以下 三十三名 編成完了後、青島市に於て応召入隊者 中谷曹長以下 一七名</p>

0110

日 月 日	<p>昭 三 一 三</p> <p>白 五 九</p> <p>至 九</p> <p>自 九</p> <p>至 九</p> <p>自 九</p> <p>至 九</p>
<p>概 要</p>	<p>ハテ子間、他部隊より転属したる者 杉山 中尉以下 三一名</p> <p>行動ノ概要</p> <p>青島特別市沙嶺莊村ヶ丘に駐屯し、沙嶺莊地区に警備勤務に服す</p> <p>初年兵才一期教育並に転科兵才一期教育</p> <p>桐突陣は吾休戦参加</p> <p>独立混成隊五旅団砲兵隊長井上大尉ヲ指揮する并七師団隊に 山口中尉ヲ指揮する福崎編成隊一中隊、中隊長以下一三一 名を差出し、井上大尉ヲ指揮に入りの、端山西方地区に對 して参加、本休戦に於て、何家、一形村間道路補修並に撤橋 築設作業に服す</p>

0111

年月日	概	要
昭和七年七月五日		山口中尉の指揮を以て福崎編成の一々中隊を嵯山北九水に駐屯せしめ陣地構築(戦斗司令所)作業に服す
昭和七年七月三十一日		青島市に於て召集入隊したる未教育兵の第一期教育
昭和七年八月一日		八木少尉の指揮を以て福崎編成の一々中隊、中隊長以下一五一名、膠濟線(膠東—高密間)の鉄道警備並に未教育兵の二期教育に服す
昭和七年八月四日		停戦詔書發布せらる
昭和七年八月八日		青島特別市尋山所に駐屯
昭和七年八月八日		本部第一中隊 尋山所に駐屯
昭和七年八月八日		第一中隊 尋山所に駐屯
昭和七年八月八日		復員下令せらる
昭和七年八月八日		停戦協定締結

年月日	概要
自昭 百 五 三 八	<p> 才一中隊中隊長、山口中尉以下一三二名、膠濟線常陽一膠泉間 (常陽、楊村、膠泉に別駐)の鐵道並に鐵橋修理作業に服す 才一中隊中隊長山口中尉以下一三二名、十二月九日濰口某中營(散 突工場)に集結し、同所の警備に任ず 青島特別市李村に集結、兵器糧秣、彈藥、醫材、被服、留面一切 中國側に於て接收のため準備をためす 接收完了 内地掃蕩準備のため濰口泉中營集結 内地掃蕩のため青島若山発 恒世保港上陸、復員亦發行 </p>

独立混成隊五旅団通信隊略歴

部隊長 陸軍大尉 鈴木 博

年月日	概要
昭 三 三	<p>編成完結の状況 主力は十支師団より一部滿州派遣隊十支師団より差出人員に依り 北京に於て編成 昭和十三年三月二十三日完結す</p> <p>兵 陸軍少佐 秋 永 知 荒 医科將校三名 主計將校一名 軍医一名</p> <p>行動の概要及要の日時 北京に於て編成完結 濟南に移動 山東省坊子に移動、坊子附近の警備並に膠濟線警備 青島に移動、青島附近の警備並に旅団司令部と各大隊間の通信</p>
西 九 二	

年月日	
概 要	<p>昭 三 五 八 四</p> <p>二 一 一 七</p> <p>一 一 三</p> <p>二 一 三</p> <p>二 一 五</p> <p>七 一 五</p> <p>隊に任ず</p> <p>備戰詔書發布</p> <p>青島特別市奉村に集結</p> <p>内地帰還の爲、濠口集中營に集結</p> <p>内地帰還の爲、才船しよ丁七ニ〇に依り青島港出発</p> <p>佐世保港上陸、徒歩に依り旧針尾海軍兵舎に集結</p> <p>同地に於て復員式挙行</p> <p>内地帰還時主力と分離し復員した一部隊の略歴は省略す</p>

至	自	年 月 日	概 要
五	四		
三	八		
三	一		
六	一		
六	七		
二	七		
三	一		
三	一		
五	一		
八	二		
部隊長官代名			
陸軍少將	越生 虎之助		
"	池上 賢吉		
"	中將 岩永 友		
"	雨宮 雙		
"	藤岡 武雄		
"	的野 憲之助		

第五混成旅団司令部部隊略歴

昭和三十一年八月十八日 此支 四十三

年 月 日	昭 西 一 一 三 二
概 	<p> 部隊編成完結状況 第一軍司令官管理の下に編成に着手し 北支山西省陽曲保太原市に於て其の編成を完結す 部隊行動の概要 (北支山西省太原反共の周辺を警備) 旅団は編成完結と共に第一軍の戦斗序列に入り、旅団司令部を 山西省陽曲保太原市に位置せしめ、鉄道(石太線、南北同蒲 線沿線)警備及太原市の周辺十三泉(陽泉、静泉、忻榆 泉、大谷、徐溝、太原、清源、文城、文水)の治安維持に任ず ると共に、豫北に在りし太原陸軍特務隊を以て管内の政 経指導に任せしむ、此の向慶次に亘る作戦討伐を実施し、管 内の治安維持並之が確保に任じたり </p>

七
七
四
三

自昭一五
 至一七
 三
 三
 八

中支武漢地区の警備

特に
 自昭一五、五、一
 の間 北支方面軍の企図せる中原会戦に因
 至 五、五、一 之に参加し蔣兼中支軍九一〇、九四〇、
 迎の上兵団を縮放す。之に参加し蔣兼中支軍九一〇、九四〇、
 懐疑的打撃を受て、一才一軍司令官より感状を授けせり。

昭和十三年十二月八日 大原市及び其の周辺に警備を 三七D
 三七D 三七D 一エ、五、一、一五に移讓し、一即ち三五〇長に指揮
 下に納入せり。主力を以て中支武漢地区に転進し
 十二月十九日 中支湖北省武昌に到着。才十一軍司令官の指
 揮下に入り
 自昭一五、一七、一五
 至 一七、一五、一九 の間 才二、才長沙作戦に参加せり

0118

年 月 日	自 昭 七 三 三 一
概 要	<p>自一七、三、一 カ南司令部を武官に位置せしめ、十一月 司令官の指揮下に在りて武漢地区の肅正整備に任ず</p> <p>北支河北省辛集鎮及山東省德縣附近の整備</p> <p>昭和十七年三月三十一日武漢地区の整備を以てカに移譲し (四月二日才十一軍司令官の指揮下を脱す)</p> <p>四月六日北支河北省東鹿泉辛集鎮に到着</p> <p>才四十一師団長に指揮下に入り、河北省保定道十泉(寧晋、 深鹿、深、安平、深次、冀、阜城、故城、新河、藁城)の整備 に担任し</p> <p>自四月十五日 至六月十日 南、北支方面軍の在國せし、冀中作戦に主力を以 て参加し、冀中軍区及冀南軍区匪を殲滅せしめ、不夜管内の</p>

支 四十三

年月日

自一八七〇
至一九一

概

要

治安矯正建設に努むると共に管内石碓線の鐵道警備に任ず

昭和十七年四月二十日、第一軍の戰鬥序列を脱し北支那方面
軍の戰鬥序列に入る

昭和十八年一月十四日、師団南海方面転進に伴ひ、同師団の
警備を継承し、旅団司令部を山東省德縣に移駐、新たに滄
州、度雲、南皮、東北、寧津、獻縣、支河の各県の警備を
担任、連統果敢なる清正掃蕩を実施し、莫定道、勳海、沿安南
正に任ずると共に管内津浦線沿線の鐵道警備に任じたり

天津特別市及其周辺地区の警備

オシヒ師団の転進に伴ひ、新に天津特別市及津海道の警備を
継承すると共に莫定十原の警備を撤去、歩兵オニ旅団に転讓し

年月日	
概	<p>一市十八界ヲ清正警備ニ任じ且管内津蘆線及東山線ノ鐵道警備ヲ担任し、微菟肅正討伐ヲ實施し、治安確保ニ任じたり。</p> <p>昭和十七年末以降、討米據岸作戰ニ備へ遠征地区及據岸各地區ノ陣地構築ニ任ず。</p> <p>昭和二十年 月 日 北支那方面軍ノ戰鬥序列ニ脱し、第四十三軍ノ戰鬥序列ニ入る。</p> <p>昭和二十年九月一日、才百十八師團ノ天津地區移駐ニ伴ひ、旅團は天津特別市及其ノ附近ノ警備ヲ才百十八師團ニ移讓し、旅團司令部は海峽ニ移駐し、北部津蘆線ニ沿ハ要城確保ニ任ず。</p> <p>武漢解隊終了一月二十日内地帰還のため海峽出發、同日北支天津野戰貨物廠ニ集結す。</p> <p>塘沽休戦二月一日休戦條約上陸同日復員式を終了せり。</p>
日	<p>自 三 一 一 一 一 一</p>

0010

0121

天 二 三	西 二 二	二 二 一	二 二 一	五 四 一	七 八 一	三 一 一	三 一 一	四 二 二	日 二 二	年月日
<p>部隊編成完了状況</p> <p>以西将太原に於て才九師団被備歩兵大隊を基幹として編成を完了す</p> <p>少佐 高下敏正</p> <p>長谷川信哉</p> <p>陸軍大佐 吉野直晴</p> <p>陸軍中佐 大野静雄</p> <p>部隊長ノ官以名</p>										
<p>概</p> <p>要</p>										

独立混成才九旅団歩兵才三十六大隊略歴

至	白	昭	西	西	五	六	七	八	二	三	天	五	天	七
二	二	二	七	八	五	三	三	三	六	六	六	一	一	七
部隊行動ノ概要	山西省太原市	榆次附近ノ警備	比ノ同左ノ作戦ニ参加す	晋東作戦	晋南作戦	西北山西作戦	晋中作戦	陵川作戦	中原会戦					

年月日	
概	<p>自昭天 三 三</p> <p>至 七 三</p> <p>天 一 三</p> <p>石 一 三</p> <p>三 四 三</p> <p>三 四 三</p> <p>六 四 三</p> <p>七 三 三</p> <p>八 三 三</p> <p>三 一 三</p> <p>三 一 三</p>
要	<p>湖北省漢口附近警備 此の向左の作戦に参加す</p> <p>オニ次長沙作戦</p> <p>河北省深泉附近警備 此の向左の作戦に参加す</p> <p>冀中作戦に参加</p> <p>河北省衡水附近警備 此の向左の作戦に参加す</p> <p>漢湖特別区南正作戦 本作戦に於て旅団長より演説を授けらる</p>

0124

年月日	
機	<p>自昭六 七 五 至 五 九 三</p> <p>河北省滄州附近ノ警備</p> <p>河北省塩山県附近警備</p> <p>此ノ間左ノ作戦ニ参加す</p> <p>香嶺一帯作戦</p> <p>特に本作戦に於て方四十三軍司令官より賞詞を授与せり</p> <p>(四)(五)頃期間中旅団ノ計画せし各種作戦に参加せり</p> <p>待 戦</p> <p>河北省南皮県泊頭附近に於て津浦線警備</p> <p>河北省滄に於て武裝訓練</p> <p>一月二十日天津東站</p>

六三三〇外
九
四十三

3810

0125

独立歩兵第三十七大隊

<p>至 五 二</p> <p>至 五 二</p>	<p>四 月 日</p>
<p>山西 行劬の概要 山西省静楽県附近の警備</p>	<p>編成 (改正、完結) の状況</p> <p>中華民国山西省太原に於て現地後備歩兵大隊を基幹とし内地補充員を合し編成を完結</p> <p>初代 佐軍大佐 飯村 頼雄 二代 大村 敏昭 三代 鬼 三 忠 雄 四代 井 上 太 三 郎</p> <p>節次長官氏名</p>

支那の三の二 支 北支 四十三軍

五	三	三	三	八	七	五	五	三	三	五	甲 月 日
一	一	一	一	一	九	八	七	七	五	三	五
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	五
<p>山西省嵐県附近の警備</p> <p>河南省開封附近の警備</p> <p>河北省安平縣滹陽界、涿州附近の警備</p> <p>河北省天津市及天津、寧河、寶坻、武清、靜海、各縣の警備</p> <p>河北省靜海縣附近並靜海縣内津浦線の鐵道警備</p> <p>河北省靜海縣附近に於て武装解除</p> <p>天津貨物廠に集結</p> <p>内地帰還のため塘沽港公帆</p> <p>佐世保上陸</p>											
<p>概 要</p>											

大分県立歩兵第三十八大隊

三 三 三	二 三 三	二 四 三	二 二 三	天 二 三	六 五 五	六 五 五	七 八 一	三 三 一	自 三 一	昭 三 一	西 二 二	年 月 日
大 代	大 代	少 佐	中 佐	初 代	陸 軍 大 佐	上 野 謙 吉	青 野 三 郎	目 沢 憲 平	松 岡 勝 明	江 田 重 一 郎	青 木 政 行	部 隊 長 官 氏 名

大分県立歩兵第三十八大隊

8810

0129

年月日	
概 要	<p>編成完結（改正）の状況</p> <p>北支山西省清源縣に於て才九師團後備才二大隊を基幹として、編成完結</p> <p>谷司編才二十一号に依り編成改正</p> <p>谷司編才四十五号に依り編成改正</p> <p>復原完結</p> <p>行動の概要</p> <p>山西省清源附近警備</p> <p>山西省清源西北方山地掃蕩隊参加</p>

0130

年月日	概
三 四 八 八 七	山西省東作戦参加
五 四 六 六	山西省文城附近警備
五 三 九 三	山西省晉南作戦参加
五 四 八 四	山西省獅等作戦参加
六 二 九 二	山西省晉南反叛作戦参加
七 三 三 三	西北山西作戦参加
八 二 六 六	山西省晉中作戦参加
三 三 一 一	山西省西方作戦参加

年月日	概
三月一	山西省文城附近警備
三月二	晉察冀垣包圍正作與參加
三月三	山西省文城附近警備
三月四	中支務駐力為文城出發
三月五	湖北省武昌着
三月六	六二次長少作與參加
三月七	湖北省漢川附近警備
三月八	北支務駐力為漢川出發
三月九	湖北省順義縣順義着
三月十	

北支務駐力為漢川出發

0132

その三の三

七

四十三

年月日	
概	<p>河北省順義附近警備 河北省藁平察南正作隊參加 河北省順義隊 河北省察南 河北省獻縣附近警備 二八秋季三号作隊並察南作隊警備 山東省臨沂縣沂州附近警備 津浦地区春三二号作隊參加 津浦地区春三二号作隊參加</p>

124-

0133

至	自	年月日	概	要
二	五			
一	八	二	京漢作戰參加	
三	一	三	津浦地區夏季二號作戰參加	
五	三	四	津浦地區夏季三號作戰參加	
三	一	五	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	六	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	七	京漢作戰參加	
三	一	八	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	九	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	十	京漢作戰參加	
三	一	十一	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	十二	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	十三	京漢作戰參加	
三	一	十四	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	十五	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	十六	京漢作戰參加	
三	一	十七	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	十八	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	十九	京漢作戰參加	
三	一	二十	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	二十一	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	二十二	京漢作戰參加	
三	一	二十三	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	二十四	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	二十五	京漢作戰參加	
三	一	二十六	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	二十七	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	
三	一	二十八	京漢作戰參加	
三	一	二十九	津浦地區秋季一號作戰參加	
三	一	三十	津浦地區秋季二號並冬季一號作戰參加	

年 月 日		概 要
昭三 一 一	一	河北省解海梁被テ於テ 中国軍才九十四軍ハ依リ武装解除
	二	天津集結
	三	内地師團ヲ天津出発
	四	樺太出帆
	五	佐世保上陸復員

0135

0135

西 二 二	三 一 三	三 一 三	三 一 三	天 三 一	天 三 一	至 三 一	自 三 一	昭 三 一	西 三 一	年月日														
部隊編成次第の状況																								
山西省太原に於て十九師団後備歩兵大隊を基幹として編成を完結す																								
<table border="0"> <tr> <td>三</td> <td>代</td> <td>少佐</td> <td>馬場</td> <td>四郎</td> </tr> <tr> <td>二</td> <td>代</td> <td></td> <td>空江</td> <td>綱彦</td> </tr> <tr> <td>初</td> <td>代</td> <td>陸軍大佐</td> <td>村上</td> <td>直清</td> </tr> </table>										三	代	少佐	馬場	四郎	二	代		空江	綱彦	初	代	陸軍大佐	村上	直清
三	代	少佐	馬場	四郎																				
二	代		空江	綱彦																				
初	代	陸軍大佐	村上	直清																				
部隊長の官氏名																								
概																								
要																								

独立混成第十九旅団
独立歩兵第三十九大隊略歴

年 月 日		概 要
至 自 西 一 二	西 一 二	部隊行動の概要
五 四 三	八 七 六	山西省太原市榆次附近の整備此間左の作戦に参加す
五 四 三	五 四 三	晋南作戦
五 四 三	五 四 三	晋東作戦
五 四 三	五 四 三	西北山西作戦
五 四 三	五 四 三	晋中作戦
五 四 三	五 四 三	陵川作戦
五 四 三	五 四 三	中原会戦

年月日		概
至 五 三	自 肥 天 三 三	湖北省漢口附近警備 此の向きの作戦に参加す
五 一 五	天 三 三	第二次長沙作戦
三 四 五	三 四 五	河北省涿県附近警備 此の向きの作戦に参加す
六 四 五	六 四 五	冀中作戦に参加
八 七 三	八 七 三	河北省衡水県附近警備 此の向きの作戦に参加す
六 一 三	六 一 三	漢陽特別区南正作戦

年月日	概	要
百廿六 七 五	河北省東北界附近の警備 (5)	
三 一 八 三	河北省老泉附近の警備 (6)	
五 四 三	香嶺一号作戦 此の尙左の作戦に参加す	
三 八 五	(10) (11) 預期尙中旅団の計画せし各種作戦に参加せり	
三 九 一	停戦 河北省、滄県附近に於て津浦線警備	
三 一 五 三	河北省滄県に於て武装解除、一月二十日天津某館 總括收札一月三十一日佐世保上陸 復員式を終了せり	

1955.10.14

北支 四十三

独立歩兵第四十大隊略歴

三 一	五 三	九 六	八 七	天 八	至 五	自 昭 西 二	年 月 日
大 代	五 代	四 代	三 代	二 代	初 代	部 隊 長 官 氏 名	概
" 大 尉	" 大 尉	"	"	"	陸 軍 大 佐		
山 田 一 太	菅 謙	山 本 稜 成	振 内 勝 巳	根 岸 幹	小 林 秋 夫		要

0140

年月日	概
昭和 二 二 二	<p>編成完結（改正）の状況</p> <p>中隊因山西省太原に於て現地復備大隊を基幹とし、内地補充員を合し編成完結</p> <p>谷司編成二十一号に依り編成改正</p> <p>谷司編成四十五号に依り編成完結</p> <p>部隊行動の概要</p> <p>山西省太原附近の警備</p> <p>中原会戦に参加</p> <p>山西省太原より中支那武昌へ移駐</p> <p>六二次長沙作戦に参加</p>

七
七
四十三

年月日	<p>至 自 昭 七 四 二</p> <p>三 一 四</p> <p>三 一 三</p> <p>三 六 三</p> <p>八 七 六</p> <p>六 四 三</p>	概 要
		<p>中支那武員より河北省將晋県に親駐、同日より同地附近の警備</p> <p>冀中準備作戦並冀中作戦に參加</p> <p>河北省冀州附近の警備</p> <p>河北省青県、大城県、任邱県、文安県、新鎮縣附近の警備</p> <p>河北省衡水県、藁城縣、武邑縣、景縣南部附近の警備</p> <p>河北省東光縣出發</p> <p>同日河北省滄州縣に親駐力主集結し</p> <p>昭和二十一年一月十五日、同地に於て武装解除を受け</p> <p>同日十七日、天津貨物廠に集結</p> <p>同日二十日、滄州に退却</p>

0142

	年 月 日
<p>同日、独立歩兵第四大隊の編成を解く</p> <p>同年一月三十日、佐世保海上陸</p>	概 要

支那の歴史 第四十三

独立混成第九旅団砲兵隊略歴

(谷才四二〇七部隊)
部隊長 陸軍大尉

年月日	自 九 大
概 要	<p>編成完結年月日 昭和二十年四月三十日</p> <p>部隊編成よりの重なる略歴</p> <p>昭和二十年軍令陸甲才十八号に依り、昭和二十年四月三十日中華民国河北省天津市に於て編成完結</p> <p>同日、独立混成第九旅団兵隊兼下に入</p> <p>河北省天津附近の警備</p>

0144

年月日		概
自 三 九 七	河北省涞源附近の警備	受
九 一 九	現地召集解除 一一人	
一 三 三	集備のたりの河北省涞源出發 同日天津貨物廠集備 内地帰還のたりの天津出發 同日塘沽出發 佐世保港上陸 同日復員式等行	
一 一 一	同日隊隊召集解除者 四七之布 残留者(戦犯容疑者)中七名 佐世保港上陸 同日隊隊召集解除 残留者(戦犯容疑者)中二一三名 佐世保港上陸 同日隊隊召集解除	

	年 月 日
<p>昭 三 二 四 天</p> <p>残務整理者一名 隊 残留者（叔護壯要員）中八名、佐世保巷上住 同日隊隊召集解散</p>	<p>編</p> <p>取</p>

独立混成第九旅団工兵隊略歴

<p>年月日</p>	<p>昭 二 二 四 三</p>
<p>概 要</p>	<p> 部隊長、中隊長の官氏名 工兵隊長 工一中隊長（初代） 工二中隊長 任軍大尉 小尉 中尉 高沢芳松 清水豊相 竹内虎生 加藤正太郎 編成完結の狀態 中華民國河北省天津北平間に於て編成整備着手 編成完結 編成内容 工兵隊本部 指揮班 </p>

自 昭 三 五 二 五	年 月 日
<p> 行動の概要 オ一次樫大地区(主力) 漢名地区 村米嶽陣地 器材班一ヶ分隊 四ヶ小隊 指揮班 オニ中隊 器材班一ヶ分隊 四ヶ小隊 指揮班 オニ中隊 器材班一ヶ分隊 </p>	
概 要	

)
 49352
 内
 此支 四十三
)
)

年月日	概	要
自昭三 七 五	オニ次塘大地区対米軍陣地の築成	
八 四	オニ次漢沽地区対米軍陣地の築成	
八 三	河北省滄県移駐の下の天津出発	
九 五	主力は河北省滄県移駐	
六	オニ中隊は独立歩兵オニ三十八大隊に配属 河北省青県に到着 同地固垣附近の整備	
三二 一 二〇	内地帰還の下の行動概要	
一 三 七	河北省滄東に於て中国軍オニ十一戦区が九十四軍により武装を解散さ る	
二 一	内地帰還の下の河北省滄東出発	
二 二	水軍上陸用舟艇により滄沽若出帆	

支那の歴史 七支

	年 日
<p style="text-align: center;">≡ ≡ ≡</p> <p style="text-align: center;">復員式終了 内地帰還時、主カと分商し復員シカ一部部隊の略歴は省略す</p>	<p style="text-align: center;">概 要</p>

独立親戎才九旅団通信隊略歴

師隊長 陸軍大尉 古守田 忠

<p>年月日</p>	<p>昭和 四 八 一〇</p>
<p>概 要</p>	<p>一、編成完了の状況 石川県金沢市歩兵才七師隊に於て編成着手 編成完了 編成内容 一、指揮班 二、有線小隊 三、無線小隊 編成人員 小佐 一 大尉 一</p>

0020

0151

<p>百八</p>	<p>年月日</p>																								
<table border="0"> <tr> <td data-bbox="395 705 438 873">守西亮出帆</td> <td data-bbox="475 705 518 873">行動ノ概算</td> <td data-bbox="609 734 651 873">馬匹合計</td> <td data-bbox="662 734 703 936">乗馬 五</td> <td data-bbox="715 734 756 873">人員合計</td> <td data-bbox="767 734 809 940">一、二等共 三〇</td> <td data-bbox="820 734 861 936">矢長 四</td> <td data-bbox="873 734 914 936">主計下士官 一</td> <td data-bbox="925 734 967 958">陣曹伍長 一八</td> <td data-bbox="978 734 1019 936">海尉 二</td> <td data-bbox="1031 734 1072 873">主計尉官 一</td> <td data-bbox="1083 734 1125 936">中少尉 三</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td data-bbox="609 1176 651 1310">靴取馬 二七</td> <td data-bbox="662 1176 703 1377">二七頭</td> <td data-bbox="715 1176 756 1310">一七五名</td> <td data-bbox="767 1176 809 1377">二</td> <td data-bbox="820 1176 861 1377">一七</td> <td data-bbox="873 1176 914 1377">一</td> <td data-bbox="925 1176 967 1377">一</td> <td data-bbox="978 1176 1019 1377">三</td> <td data-bbox="1031 1176 1072 1377">一</td> <td data-bbox="1083 1176 1125 1377">一</td> </tr> </table>	守西亮出帆	行動ノ概算	馬匹合計	乗馬 五	人員合計	一、二等共 三〇	矢長 四	主計下士官 一	陣曹伍長 一八	海尉 二	主計尉官 一	中少尉 三			靴取馬 二七	二七頭	一七五名	二	一七	一	一	三	一	一	<p>概算</p>
守西亮出帆	行動ノ概算	馬匹合計	乗馬 五	人員合計	一、二等共 三〇	矢長 四	主計下士官 一	陣曹伍長 一八	海尉 二	主計尉官 一	中少尉 三														
		靴取馬 二七	二七頭	一七五名	二	一七	一	一	三	一	一														

ヤのミ、ミ七 内 北後 四十三

3310

0152

年月日	概	要
昭和八年三月	中華民国唐石老上陸 山西省太原到着 同地附近の警備通信に従事	
昭和八年三月	第一期晋察冀辺区南正討伐作戦に参加 参加兵力 主力	
昭和八年三月	第二期晋察冀辺区南正討伐作戦に参加 参加兵力 主力	
昭和八年三月	中原会戦に参加 参加兵力 主力	
昭和八年三月	中原那へ報道の力の太原出發 湖北省武昌到着 同地附近の警備通信に従事	
昭和八年三月	第二期長沙作戦に参加 参加兵力 主力	

そのほか
七
ロイ三

--144--

0153

年月日	概
昭 三 三 四 六	<p>北支那へ移駐のみの武官出張 河北省辛集鎮へ到着 同地附近の警備通信に従事</p>
五 一 六 一 四	<p>冀中作戦に参加 参加兵力 — 主力 山東省徳県へ移駐 同地附近の警備通信に従事</p>
七 五	<p>同地附近の警備通信に従事 京漢作戦に参加 参加兵力 — 下士官以下主力</p>
九 七	<p>河北省滄県へ移駐 同地附近の警備通信に従事</p>

年月日	<p>自昭二 一 一四</p> <p>至 一 一</p> <p>一 三 一</p>
概	<p>内地帰還リカリノ行動概要</p> <p>河北省滄県に於て中國軍才十一軍に才九十四軍に依り武器を接收</p> <p>内地帰還の爲め滄県を出發</p> <p>米軍上陸用舟艇により塘沽港出帆</p> <p>佐世保港上陸</p> <p>復員式終了</p> <p>部隊略歴 調整官</p> <p>陸軍大尉 吉守田 忠</p>